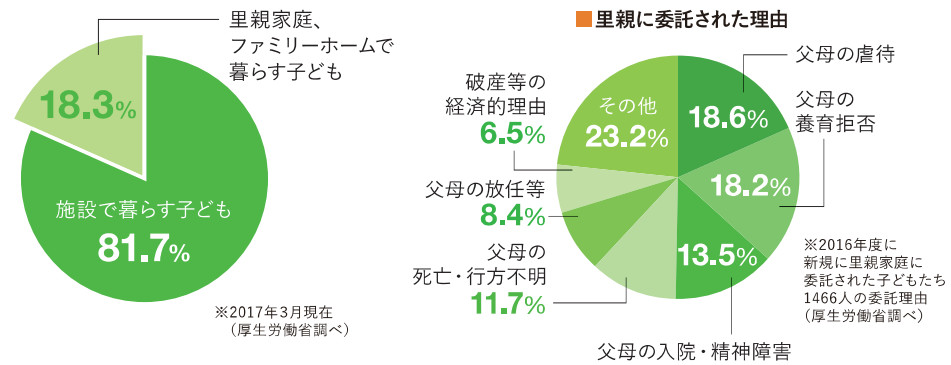


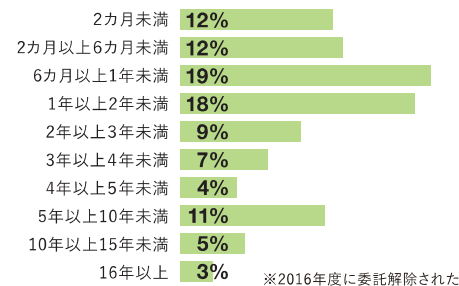
虐待や親の病気など様々な理由で親と一緒に暮らせない子どもたち。
養子縁組だけではなく、子どもに必要な期間、
家庭に受け入れて育てる「里親制度」があります。

どんな子どもたちが「里親」を必要とするの？

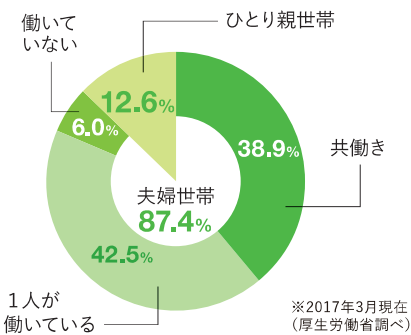
虐待、経済的理由、親がいないなどの理由で親と暮らせない子どもたちは約4万5000人



子どもが里親家庭にいる期間



里親の状況



「里親」にはどんな種類があるの？

〔養育里親〕

18歳まで（必要な場合は20歳まで）の子どもを、子どもが自立したり、生まれ育った家庭に戻ったりするまで、自分の家庭に受け入れて育てる里親です。期間は子どもの事情によってさまざまです。

〔養子縁組里親〕

原則6歳未満の子どもを、特別養子縁組（戸籍上も自分の子どもとして育てること）を前提として養育する里親です。養子縁組が成立するまでは、里親として育てます。

※他に、虐待により専門的ケアを必要とする子どもや障害のある子どもを育てる「専門里親」、両親が死亡するなどして育てられなくなった子どもを親族が育てる「親族里親」があります。

*短期間の里親もあります

子どもが親と離れて生活をしなければならない事情の中には、例えば“母が出産で入院”といった数日間の場合や、“けがで1カ月間”など比較的短期間のケースもあります。「短い期間なら協力できる」という方に適しています。

■子どもの養育に必要な経費が支給されます■

養育里親の場合 ----- 1人目 8万6000円／2人目以降 4万3000円（月額）

生活費（子ども1人当たり） ----- 乳児 5万8310円／乳児以外 5万570円（月額）

※これ以外に、医療費や教育費などが支給されます。

里親の条件など

●子育て経験がなくても里親になれますか？

→なれます。登録前研修と実習で養育里親としての準備をします。

●単身者でも養育里親になれますか？

→自治体ごとの条件を満たせば、単身者でも里親になれます。

●子育てで困ったときは？

→養育はチームで行います。児童相談所や支援機関などが訪問や電話でサポートします。

●家の広さなどは？

→子どもが生活するために必要な広さがあれば借家でも大丈夫です。年齢によって男女を別の部屋にするなどの配慮は求められます。

里親になるまで

1 相談

児童相談所や支援機関に相談し、説明を受けます。

2 研修・家庭訪問

研修は数日間で、里親制度や子どもの権利擁護について学び乳児院などで実習も行います。

3 登録

都道府県の審査を経て、里親登録となります。

4 子どもとの出会い

子どもの紹介を受けて面会し、外出や数日間の宿泊などで交流します。

5 里親委託

子どもとの生活が始まります。

「里親」いま、家庭の新しいカタチ

家庭という居場所を求める子どもと、
子どものために何かをしたいと望むあなたへ

里親制度に関心を持たれた方は、
お近くの児童相談所にお問い合わせください。

■ 児童相談所全国共通ダイヤル > **189**

■ インターネットからは

全国児童相談所一覧

里親制度を知っていただくための
さまざまな情報発信をしています



厚生労働省里親制度概要



全国里親会ホームページ

里親制度広報チーム
「家庭のカタチ」

公式 Youtube
チャンネル ▶▶

公式 Twitter
@oyakonokatachi



いろいろある、「里親」のカタチ

フォスタリングマーク 里親普及のためのシンボルです。
温かな家庭を必要とする子どもが、育ちを支える里親家庭と結ばれ、
その里親家庭を支える社会の輪が広がっていくことをめざしています。

里親が育てる。
社会が支える。

赤ちゃんの子育てをもう一度



山梨県の主婦、知世さん(56)と夫章介さん(60)=いずれも仮名=は里子の3歳男児を育てています。男児は1歳2カ月のとき、乳児院からやって来ました。2カ月後、初めて歩きます。部屋で立ちあがると、2、3歩、よたよたと歩きました。「わっ、歩いたよ!」。知世さんは思わず叫びました。「泣きそうなほど感激しました」

夫婦は30歳の長男をはじめ実子を6人育てました。男児を迎えて最初の1年半、知世さんはつきっきりで過ごしました。ベビーカーで散歩したり児童館の幼児教室に通ったり。「久しぶりの赤ちゃんがうれしくて」



男児は最近、料理に夢中です。知世さんが餃子の皮を伸ばしていると「やりたい」「やりたい」と近寄ってきます。洗濯物を干しても、「ばあば、ばあば」と寄ってきます。また、章介さんが出張から帰ると、

「じいじ!」と玄関まで飛んできます。「じいじ」と「ばあば」にべったりです。

「実子の時は余裕がなかったけど、この子と遊ぶ時間はとても長く、こんなにたくさん絵本を読んだり散歩をしたりするのは初めてです。かわいい」と目を細めます。そんな「ばあば」に、男児がぎゅーっとしがみつきました。

男児がいた山梨県の乳児院「ひまわり」には来客用の浴室や個室もあります。里親が委託前に通い、入浴のさせ方や離乳食の作り方、抱き方などを練習するためです。職員の小田切則雄さん(70)によると、「里親さんは最初はこわごわ抱っこします。でも、赤ちゃんにいやされ、引き取るときにはお父さん・お母さんの顔になっています」とのことです。

不妊治療をやめ4人の子の里親に



東京都八王子市の菱山優美さん(41)・佑輔さん(42)宅のリビングには、4人の里子の入学式や七五三、旅行などの「家族写真」が並んでいます。

20代前半で結婚しましたが、子どもに恵まれませんでした。優美さんは不妊治療を2、3年続けて疲れていたころ、仕事帰りのバス内で「親を必要としている子どもがいます」というポスターを見かけ、児童相談所に電話しました。

里親登録から約1カ月後、児相の連絡で乳児院に行き、3歳だった男児(現在16歳)と夫婦で面会します。翌日また行くと、佑輔さんは「お父さん」と呼ばれました。「会うたびにかわいくなり、仕事帰り

に毎日のように通いました」

約3カ月後、一緒に暮らし始め、休日の過ごし方ががらりと変わりました。公園やプールが多くなり、ショッピングは減りました。「朝起きて、着替えさせて、ご飯を食べさせて。昼間は、砂場や児童館で遊んで。全部が楽しい」と優美さん。

たくさん育てたくて養子縁組里親ではなく養育里親を希望。男児(同12歳)、女兒(同10歳)、男児(同4歳)も加わり、今は、上の子が下の面倒をみます。優美さんは子どもたちと触れ合う時間に充実感を感じています。「この子たちに出会えて本当によかった」

◎こんな「里親」もあります◎

「これなら私にも」週末里親[※]で2人を迎えて



大阪府の遙花さん(54)と晃さん(58)=いずれも仮名=は中学生の姉と弟を、3年前から毎月1度、1泊2日で受け入れています。「週末里親」という取り組みです。

受け身だった晃さんも、子どもたちが実際に来てみると、虫取りに連れて行ったり、公園で自転車の乗り方を教えたり、積極的に関わっています。「実子が成長して会話も減っていただけに、夫も楽しいようです。高校生だった実子の二女もお世話をし、大学生で下宿生活の長女・長男も帰省するとかわいがってくれました」

2人は授業参観に遙花さんが来るととても喜びます。先生に当たら

れて答えたあと、振り返って遙花さんの姿を確認めます。2人は何が食べたい何がしたいと最初は言えませんでした。施設では食事や日課が決まっているからです。本当はポケモンの映画に行きたかったのに言えず、遙花さんから言ってあげると、「実はそれに行きたかった!」と大喜びしました。

遙花さんは「今度来たときに何をしてあげたら喜ぶだろうと考え、時間が多くなりました」と話します。姉弟の両親とは連絡がつかません。「大人になっても実家代わりに頼ってほしい」。遙花さんたちの思いです。

※週末里親・季節里親

お正月や長期休み、週末などに1泊～1週間程度、子どもを預かります。児童福祉法上の「里親」ではなく、自治体によって制度の有無や呼称が異なります。

養育はチームで

子どもと一緒に暮らすのは里親ですが、委託を行う地方自治体も養育を支援します。児童相談所や支援機関などの担当者が訪問や電話などで子どもの状況と一緒に見守り、困った時には一緒に考えます。

共働きで子ども2人の里親



東京都品川区の広告関連会社経営、由美さん(58)と夫聡さん(58)=いずれも仮名=は里子の男子2人を育てています。夫婦は共働きです。

由美さんは子どもができず、仕事が忙しかったので、「子どもなしの人生もありかな」と思ったこともあり。不惑を過ぎるころ、社員にある程度仕事を任せられるようになり、子育てへの思いが募りました。里親制度を知ったのはそんな時でした。

2004年、1歳半の男児(現在15歳)を迎えました。最初、添い寝をしても、ほ乳瓶を吸いながら向こうを向いていましたが、やがて抱っこされて眠るようになりました。「新米のママと

パパだから、可愛くてしょうがない。旅先では3人で手をつないだりして、幸せを実感しました」。07年には、2歳半の男児(同13歳)も加わりました。

仕事との両立が大変な時期もあり、自宅で子どもをあやしながら仕事の電話をしたこともあります。

しかし、今となっては良い思い出です。「育児を経験すると『相手ができるまで待つ』などをいや応なく経験できます。我慢することで自分が広がり、仕事でも生かされます」。子育てのさまざまな場面を思い返し、由美さんは楽しそうに話しました。

ファミリーホーム 大人数で花火やクリスマス



5、6人の子どもを預かるファミリーホームを神戸市で運営する小松拓海さん(38)と妻奈央さん(38)。実子3人・里子5人はみな男子で、高2、中2、小6、小5、小1・2人、幼稚園(年中)、1歳と並びます。週末は補助員さんが手伝います。

拓海さんの朝は10キロの洗濯機を4回回すことから始まります。子どもたちは各自都合のよい時間に食事をし、消灯時間も自由です。テレビは3部屋にありますが、多くがリビングに集まって一緒に見たり、ゲームをしたりしています。

年に数回、全員で花火やクリスマス、卒業祝いを楽しみます。近くのファミリーホームと合同でやることも多く、大人数で盛り上がり。毎年、家族10人がワゴン車で日帰りや泊まりがけの旅行もします。遊園地やテーマパーク、北海道など。子どもたちにどれだけ喜んでもらえるか、拓海さんが計画を練ります。

実子も里子もよく友だちを連れてきます。また、小6・小5が中心に小さい子にご飯を食べさせたり、お風呂に入れたりするのを手伝います。実子、里子の区別なく、面倒をみたり見習ったりという兄弟の関係があります。拓海さん・奈央さんは「私たち夫



婦はずっとここにいる。子どもたちが巣立った後も、帰って来られる場所になりたい」と話しています。

ーメッセージー 「早い段階で家庭生活へ」

女優／サヘル・ローズさん



私は母と2人暮らしです。母は20代前半の時、7歳の私を施設から引き取ってくれました。知人を頼って2人で日本にきましたが、すぐに母娘2人暮らしになり、母はきつい仕事をして私を育ててくれました。

小学生の時、週に1度、フードコートで1杯のラーメンを2人で食べました。母はいつも少ししか食べず、残りを全部くれるのですが、帰りのバスで母のお腹が空腹で鳴るのです。貧しくとも、母の愛情をいっぱい受け、楽しい家庭でした。だから、母とは今も大の仲良しです。仕事の休憩時間などに電話やLINEで「サヘルちゃん、何時に帰ってくるの?」「もう少し待ってね」なんてやり取りを毎日のようにしています。

2013年、私がいたイランの児童養護施設を訪ねると、私を覚えている職員さんがいました。女優をしていると報告すると、「励みになる」と泣いて喜んでくれました。施設の方々も懸命に子どもたちと関わっているのです。ただ、1人の職員が何人もの子どもをみなければなりませんし、勤務時間外は関わられません。子どものニーズに十分には応えられず、子どもが寂しく感じる場合もあります。早い段階で家庭生活に移れる方が子どもにはいいと思います。

母と私は「週末里親」を将来やりたいと希望しています。母が子ども好きなので、本当の孫のようにかわいがると思います。

横のつながりも

全国各地に里親会など里親の横のつながりもあります。一緒に旅行や食事会を楽しんだり、悩みを話し合うなど、里親同士の交流の中で支え合います。